

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月31日

令和3年度(5年目)

事業コード	35	事業名	職場改善啓発事業			戦略コード	4	戦略名	機能的・効率的な商工会		
担当部名	総務部	担当課名	総務・人材育成課	担当課長名	市井 仁	施策コード	18	施策名	自ら考え行動する職場改善活動の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景
 社会経済情勢の変化により小規模事業者の経営環境が厳しさを増す中で、事業者ニーズに対応し商工会の使命を果たすことが求められている。そのためには、商工会が業務を効率的に進めることができる職場環境を整備していかなければならない。

2. 事業のねらい
 県連合会と県職員協議会が一体となって、職場単位で自らの仕事の進め方、あり方を総点検し、職員一人ひとりが自覚を持って職場改善活動に取り組むことで、質の高い仕事につなげるとともに、仕事に対するモチベーションを高めることにつなげる。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

職場単位で、これまでの職場改善活動の取組を検証し、業務効率化につながる職場改善の取組を行った。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応
 全県の好事例を収集し共有できる仕組みを構築するとともに、職場改善の状況を点検できるチェックシートにより状況把握を行う。

【取組評価】

取組コード	取組	実績	必要性	有効性	効率性	総合評価
81	職場改善方針の提示	令和2年度に制定した「在宅勤務に関する要領」に基づき、各商工会で新型コロナウイルス対策として在宅で業務ができる体制を整備した。	a	a	a	A
82	職場改善活動の計画策定	商工会の実情に応じた計画を策定し、実行した。	a	a	a	A

評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

取組コード	82					取組コード						取組コード					
指標名	職場改善活動の計画策定数					指標名						指標名					
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	21件	21件	21件	21件	21件	目標						目標					
実績	21件	21件	21件	21件	21件	実績						実績					
達成率	100%	100%	100%	100%	100%	達成率						達成率					
達成度	a	a	a	a	a	達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 【取組評価】の必要性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) **a**
 (評価の理由)
 事務の効率化・生産性向上だけでなく、新型コロナ対策の観点から、組織をあげた職場環境の整備は必要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【取組評価】の有効性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) **a**
 (事業の目標は達成されているかどうか)
 職場単位で年度ごとの計画・目標を立て、実行していくPDCAサイクルを回していくことで、より良い職場環境づくりにつながっていくことから、事業は有効である。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 【取組評価】の効率性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) **a**
 (コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由)
 各職場において、職員一人ひとりが創意工夫をこらし効率化の意識をもって取り組んでいる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **A**
 業務効率化につながる職場改善の取組と併せて、柔軟な働き方につながる在宅勤務の仕組みを整備することができた。

3. 課題
 職場内の現状の課題を整理して、改善策を実行し続けることができる仕組みづくりが必要である。

4. 今後の対応方針(改善点)
 改善の効果を検証できるよう、定量的な目標設定を行い、効果の見える化を図る。